

2017.11 No. 38



# 佐賀大学病院ニュース

## 患者・医療人に選ばれる病院を目指して News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号 TEL 0952-31-6511(代) 病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

### 東病棟が完成しました。

このたび、佐賀大学医学部附属病院の東病棟が完成し、9月30日に病棟移転が行われました。これにより病棟部門の再整備が終了し、残るは外来部門のみとなっています。

2階は東病棟が小児科を中心とする「こどもセンター」(小児病棟)となり、西病棟のNICU、産科婦人科、分娩部門との連携が密に取れるようになりました。こどもセンターの廊下やプレイルームの壁面には、入院中のこども達に少しでも安らぎや活力を感じてもらえるように、本学芸術地域デザイン学部のご協力により、動物や樹木などの「ホスピタルアート」が描かれています。2階西病棟には女性泌尿器科もあり、女性病棟としても機能的です。



副院長 (再整備担当) 倉富勇一郎

3階は東に呼吸器内科・外科、循環器内科が入り「ハート・ラングセンター」に、4階は東に一般・消化器外科が入り「消化器・代謝センター」に、6階は東に整形外科、総合診療科、ペインクリニック・緩和ケア科が入り「関節外科センター」になるなど、機能的に再配置されています。5階東にも西の眼科、耳鼻咽喉科との関連が深い歯科口腔外科、形成外科、泌尿器科が入りました。(7階東は左にある病院長からのご紹介をご参照下さい)



### 特別室専用病棟のお知らせ

佐賀大学医学部附属病院は、平成23年の外構工事からスタートした病院の再整備を進めてきましたが、このたび東病棟が完成しました。この東病棟の7階に特別室専用病棟を配備しましたので、ここで紹介します。

佐賀の地にありながらも世界の医療のレベルに勝るとも劣らない優れた医療設備と機器を揃えるという目標に加えて、患者さんの療養環境を少しでも快適なものにすること、現代社会の中で多様化した患者さんのニーズを汲み上げて実現するための一つの手段として、特別に快適な病棟



病院長 山下 秀一

を用意しました。ある程度高額ではありますが、非常に快適で打ち合わせ等にも使用できる広さを備えた特等A室から、リーズナブルで快適な特等D室まで、4種類のタイプを用意しています。

内覧会にお見えになった方もおられることと思えますが、患者さんのさらなる満足度向上に十分なほどの、目をみはるような仕上がりになっています。この施設を十二分に活用して患者さんの療養環境を少しでも良くするため、職員一同努力してまいりますので、ぜひご利用のほどをお願い申し上げます。



▶特等A室の様子

### 厚生労働大臣賞を受賞しました。

平成29年6月に、第1回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動を表彰する内閣官房の事業において、佐賀大学医学部附属病院感染制御部として「厚生労働大臣賞」を受賞いたしました。

医療の高度化・複雑化に伴い、抗菌薬使用量は増加の一歩を辿り、これに並行する病原細菌の抗菌薬耐性化が世界的な問題となっています。当部門では平成18年から初期研修医を対象として、適正な感染症診療の基本的臨床力を養う教育を行って来ました。現在では、抗菌薬治療の標準的知識を有する医師が院内全部署に増え、この結果、抗菌薬耐性菌の分離頻度、及び抗菌薬適正使用の指標は、国立大学附属病院53施設において最も優良な状況にあります。これは過去10年間の、本院の全診療科横断的な取り組みがあったからこそであり、そういう意味において、今回の受賞は佐賀大学医学部附属病院全体の医療が最良標準のレベルにあることの顕彰であると考えて良いのではないのでしょうか。



感染制御部 部長 青木 洋介



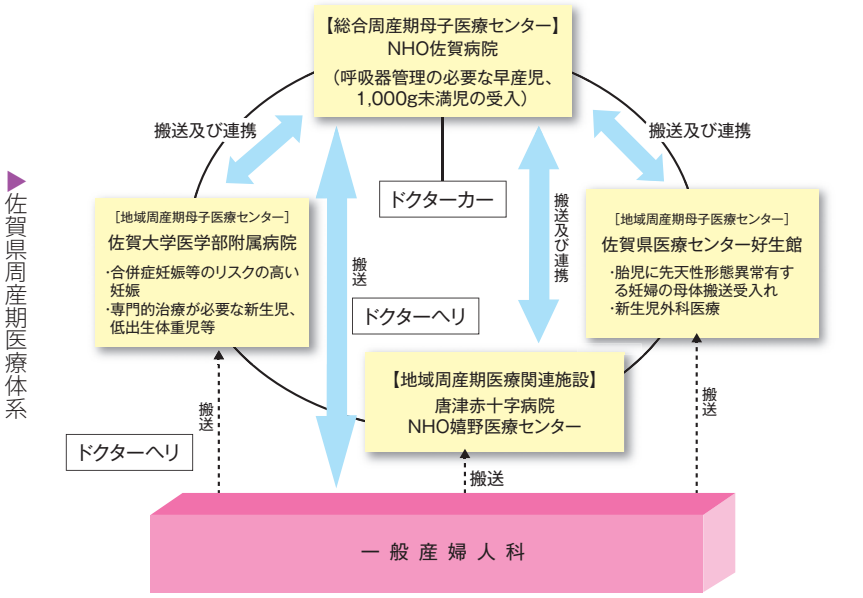
▲青木部長(前段真ん中)ら感染制御部と病院長(前段右)

### 地域周産期母子医療センター認定



産科婦人科 診療科長 横山 正俊

本院は平成29年3月29日、佐賀県から地域周産期母子医療センターに認定されました。これまでも総合周産期母子医療センターであるNHQ佐賀病院とともに、佐賀県の周産期医療を担ってきましたが、今後は周産期専用の病棟建設や分娩監視装置などの機器購入に加え、運営費に関する国や県の助成を得やすくなります。本院は、脳内出血を含む合併症妊娠等のハイリスク妊娠、妊娠28週以降の早産、専門的治療が必要な新生児、低出生体重児、DIC等の危険を伴う産科救急、危機的産科出血などに対処しています。一方、NHQ佐賀病院は妊娠28週未満の早産にも対応できる、佐賀県医療センター好生館は胎児に先天性の異常がある妊婦の受け入れや新生児外科医療を受け持ち、お互いに搬送、連携を行いながら対応しています。現在でも、佐賀県の周産期死亡率、新生児死亡率、母体死亡率は全国でも低い値を維持していますが、今後も各施設の役割分担を見直ししながら、周産期医療に迅速に対応できるように務めていく方針です。特に産科救急は一刻を争う症例が多いため、ドクターヘリもさらに活用していく予定です。



▶佐賀県周産期医療体系

東病棟が完成しました。

倉富勇一郎 特別室専用病棟のお知らせ

山下 秀一

厚生労働大臣賞を受賞しました。

青木 洋介

地域周産期母子医療センター認定

横山 正俊

